

金融政策委員会の意思決定と制度設計

盛本圭一*

2009年5月23日

概要

本稿は、金融政策委員会の意思決定から出発する金融政策モデルを構築・分析し、望ましい金融政策制度に関する含意を導くことを目的とする。本稿では、近年の金融政策に関する意思決定が委員会を通じて行われていることに鑑み、委員会の決定から出発する金融政策モデルを構築した。具体的には、金融政策委員会内部での意思決定の過程をミクロ的に記述し、それを標準的な新ケインズ派モデルに接続することで、委員会の制度と社会厚生をつなぐことに成功した。基本的な結論は次のとおりである。委員会によって意思決定を行うことは、経済状況の把握が不完全な下では、複数の委員の見解を総合することで政策決定のミスから生じる損失を軽減できるが、一方で協調の失敗による損失を生む可能性もある。したがって、委員会を大きくする、あるいは委員会を組織することが社会厚生上望ましいとは必ずしも言えない。それは、委員の予測精度等の条件に依存するのである。実際、金融政策委員会を有する国の間でも規模や実質的独裁の有無については様々であるが、上記の結果はその事実を説明する一助となると考えられる。

JELコード: D82, E52, E58

キーワード: 金融政策、委員会、協調の失敗、情報透明性

*大阪大学経済学研究科博士後期課程二年、 メールアドレス: gge014mk@mail2.econ.osaka-u.ac.jp